

令和7年度 和歌山県地域と学校の連携・協働体制推進事業

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の報告

課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	
①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	総合的な学習の時間での学びが、教科横断的な視点、地域の人的資源、物的資源が有効活用されていない場面が見受けられる。	現在14小学校に14名の地域学校協働活動推進員を配置しているが、5中学校での推進員の活動も活性化する。推進員は学校と地域の連絡調整を行い、教員の業務軽減を図る。	教員と地域人材を交えて、授業のねらいを共有する機会を図る。	地域学校協働活動推進員が地域人材や地域資源をつなぐことにより、教員の教材研究の負担を軽減する。	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙 総合的な学習の時間の肯定的な取り組み方の割合	79	%	85	79	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる	地域学校協働活動推進員が地域人材や地域資源をつなぐことにより、教員の教材研究の負担を軽減する場面もあったが、取組が増えることにより教頭などの負担が増える場面もあった。
②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	学校運営協議会、青少年育成市民会議等さまざまな会議で議題となるが、具体的な活動につながりにくい課題や高齢化がある。	登下校時に支援員を配置し、安全指導と見守り活動を行う。	福祉関係課、社会福祉協議会、市PTA連合会等と連携し、地域の各種団体に登下校見守りボランティアを発掘する。	児童が支援員とあいさつを交わしながら登下校することで、地域のつながりを感じるようになる。	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙 地域や社会をよくするために何をすべきか考える割合	83	%	90	82	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる	目標値は下回ってはいるが、児童が地域の方とあいさつを交わしながら登下校する場面や、授業で関わることにより、地域とのつながりを感じる場面は増えていると考えられる。
③学校と家庭の課題	家庭等における学習習慣の定着	保護者の共働き核家族化により学校以外で学習を行う習慣が児童生徒に定着していない。	子どもの居場所づくり推進事業において、地域住民（元教員、図書ボランティア、PTA等）の協力を得て、宿題や復習を行い、学習習慣の定着を図る。	地域住民や中高生、大学生と連携し、子どもの居場所づくりの機会を作り、出番づくりを促す。	学校以外で日常的に学習を行う児童生徒が増える。	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙 1日あたり1時間以上、学校以外で学習する割合	55	%	65	55	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる	目標値には届いていないが、地域住民や学生ボランティアの協力により、学習できる機会を作ることができたので、継続して取組を進めることで、学校以外で日常的に学習を行う児童生徒が増えると考えられる。